

松中の絆《1月行事》平和について学んだ感動と喜びの修学旅行 松茂中学校2年 2024年1月9日(火) 第11号

達成感のある1日1日を過ごしていこう

3ヶ月後、中学最終学年となる2024年がスタートします。3年生の先輩たちは、1月15日(日)に予定されている阿南高専の推薦入試を皮切りに、私立高校の入試、公立高校の育成型選抜、一般選抜の受験に向けて努力を続けています。

それは、1年後の皆さんの姿です。2月14日(水)には、積み上げてきた皆さんの学力が試される基礎学力テストが予定されています。

このテストから、皆さんの高校入試についてのイメージが明確に広がっていくこととなります。基礎学力テストは3年生では、3回実施されます。これらのテストを乗り越え、皆さんは希望の進路に進んでいくこととなります。確かな学力は、日々の努力の結果です。

まず、2年生で受ける基礎学力テストまでの1日1日を全力で頑張っていきましょう。

今回の「松中の絆」は、11月27日(月)から29日(水)の3日間、天気に恵まれた東京方面への修学旅行の生活ノートと短歌、東京大空襲・戦災資料センターでお話を聞いた亀谷敏子さんに学んだ平和学習の生活ノートも掲載しています。仲間の文章から私たちに問われている生き方について考えていましょう。

日	曜	1月行事予定
9	火	B日課 ①始業式②～④授業⑤防火訓練
10	水	課題テスト①国②英③数④社⑤理
11	木	B日課 水曜日課 ⑤⑥第4回ゆめ・ミライ塾
12	金	学級役員任命(放課後 校長室)
15	月	B日課 朝読(～19日)
16	火	B日課
17	水	B日課
18	木	B日課 ノー部活デー 清掃カット
19	金	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	B日課 ノー部活デー
26	金	
29	月	
30	火	
31	水	

家族への感謝と、仲間との深い絆が培われた修学旅行



【修学旅行について綴ってくれた仲間の生活ノート】

11月30日(木) 楽しかった修学旅行の3日間を振り返って

2泊3日の修学旅行でした。1日目の11月27日は朝7時に集合して、初めての飛行機に乗って東京へ旅立ちました。私は、この時まだ東京へ行けるとい実感がありませんでした。一番最初に行ったのは、「八百八町花の舞」でした。そこでは、初の「ちゃんこ鍋」を食べました。とても鶏肉は柔らかくて、とてもだし汁が効いていたと思います。

次に行ったのは、「東京大空襲・戦災資料センター」です。実際に空襲を体験した人の話を聞いたことがなかったので、とても胸が痛くなりました。日本で戦争は今はないけれど、世界では、未だ戦争が続いています。ニュースを見ると、とても苦しいです。私たちは、この悲惨な恐ろしさ、想像できないような苦しきから目を背けず、真っ直ぐ向かい合っていきたいと思いました。

1日目の最後は、浅草自主研修で、浅草寺へ行きました。家族に「雷おこし」を買って、柔らかい有名なメロンパンを食べました。メロンパンは、想像よりもふわふわで、油断するとつぶしてしまいそうになるくらいでした。おみくじは「吉」で、参拝もしました。

2日目の11月28日火曜日、まず行ったのは、上野恩賜公園で、私たちの班、Fさんと、Mさん、私の3人は、「国立科学博物館」へ行きました。主に恐竜の骨を見ました。「徳島県立博物館」でも見たことがあったけれど、迫力が全然違って、とても楽しかったです。もし、次にここに来ることがあったら、動物園にも行きたいし、美術館に行きたいです。

2番目に国会議事堂の方へ向かいました。よくニュースで見ている「参議院の本会議場」に入ることができて、とても嬉しかったです。参議院は投票の仕方がボタンと聞いて、すごく良い方法だなと思いました。

最後に行ったのは、一番楽しみだった「ディズニーランド」でした。丁度、最近ディズニーにはまっていたので、良い機会でした。「イツアスモールワールド」「ジャングルクルーズ」「ビッグサンダーマウンテン」「カリブの海賊」の4つのアトラクションに乗

りました。

「イツアスモールワールド」の中に、モアナやスティッチなどの作品もあって、楽しかったです。「ジャングルクルーズ」は、夜に行ったので、ホテルの光があつたりしました。動物の鳴き声などがすごくリアルで、ワクワクしました。

そして、3つ目に「ビッグサンダーマウンテン」に乗りました。これはパレード中に行ったので、待ち時間40分で、かなり早く乗れました。とてもカーブがすごくて、真っ暗な洞窟の中に入った時が一番楽しかったです。

最後に乗ったのは、「カリブの海賊」で、「パイレーツ・オブ・カリビアン」のアトラクションでした。動きがすごくリアルで、どこから声が出ているか分からなかったくらいでした。アトラクションの中で霧が出たりしていたので、とても楽しかったです。推しの「ジャック・スパロウ」と「バルボッサ」がいて、乗ってよかったです。

3日目は、「パナソニックセンター東京アケルエ」に行きました。今、問題になっている地球温暖化についてや、STEAM教育についての、たくさんの不思議に触れることができ、とても楽しく学ぶことができました。

家に帰って、家族にお土産を渡すととても喜んでくれました。私は妹と「不思議の国のアリス」に出てくるトランプ兵の人形キーホルダーのハートとスペードをお揃いとして持つことにして、私がスペードのトランプ兵を持つことになりました。

母には、パイレーツのキーホルダーと、メダルのネックレス。父には、パイレーツのキーホルダーと、メダルのネックレス、スティッチのミニ人形。妹には、鍵のネックレスと、ハートのトランプ兵。私は、スティッチの大きい人形、スペードのトランプ兵、ティラノサウルス3D型。家族全員には、雷おこし、恐竜のもっちり焼き、アーモンドチョコを買いました。みんなの喜んでる顔が見れて良かったです。

11月30日(木) 修学旅行で学び、体験したことを糧に、これからの生活をより充実させていきたいと思う

今日の生活ノートは、3日間の修学旅行を振り返りたいと思います。僕は、今回の修学旅行では、東京に行くのも飛行機に乗るのも初めてだったので、とても楽しみだったんですが、飛行機は離陸する時に耳が痛くなったり、頭が痛くなったりして、身体がとても疲れました。

まず、1日目は「東京大空襲戦災資料センター」と「浅草寺・浅草仲見世」に行きました。「東京大空襲戦災資料センター」では、実際に溶けて固まった硬貨や、亡くなってしまった多くの人が積み重なった写真など、様々なものがあり、実際に実物を見ることで、改めて戦争の悲惨さやどれだけの人が苦しんだのかがわかりました。

また、センターの人は、「B29爆撃機」によって落とされた焼夷弾のレプリカを見せてくれながら、焼夷弾というのはどういうものなのかを教えてくださいました。僕は今まで、なぜあれだけの勢いで炎が家屋に回り、多くの人が火だるまになり焼死したのか疑問に思っていたんですが、焼夷弾にはたくさんの油とゼリー状の油が入っており、身体に張り付いたら取れることなく燃え続け、多くの人を殺したことを知りました。今回は、語り部さんの話が聞けたのですが、僕たちが大人になる頃には、実際に戦争を体験した人もいないと思うので、まずは、自分たちが後世に伝えていくことが大切だなと思いました。

そして、次に浅草に行きました。行ける場所が限られているので、ネットでどこに行こうか調べたんですが、時間も少なかったもので、あまりお土産も買えませんでした。ですが、YouTubeなどで見たことのある雷門や人形焼の店に行って、写真がたくさん撮れたので良かったです。また、その時は夕暮れ時だったので、お寺がきれいに光っていたり、雷門にもあまり人がいなかったりしたので、東京のきれいな街並みを見ることができました。

また、2日目には、「上野動物園」と、「国会議事堂」「皇居」「ディズニーランド」に行きました。上野動物園にはパンダがいるようなのですが、時間がなかったので、ゴリラやトラなどを見ました。初めて行ったところだったので、何がいるか探るのが楽しかったです。そして、上野動物公園内の西洋美術館にも行く予定だったのですが、残り10分くらいだったので、急いで回ったのに、逆行禁止で通路がとても長かったので、集合時間に間に合うか不安だったのですが、ギリギリで間に合ったので良かったです。

そして、次に国会議事堂と皇居に行きました。テレビでよく見る国会の参議院本会議場に入れたし、警視庁のレガシイB4や機動隊、警備車など、様々な警察車両を見れたので、修学旅行で一番の思い出となりました。皇居は通過するだけなのですが、バスから綺麗に見ることができました。また、その時に丁度皇居内に入れるイベントをしていたので、警視庁特有の緑の機動隊やDJポリスも見られました。

そして、2日目の最後にディズニーランドに行きました。母からパレードは絶対見た方がいいと言われていたので、7時のパレードに備えて、今のうちにアトラクションに乗っておこうと思っていたんですが、丁度、「ビッグサンダーマウンテン」についたくらいに昼のパレードをしていました。初めて見るミッキーやミニと、迫力のある音楽と踊りには感動したし、間近で見れたので良かったです。

そして、パレードまでに3つくらいアトラクションに乗れた中でも、唯一、「スターウォーズ」がすごかったです。他のアトラクションは50分待ちと、待ち時間が長かったので、短い5分待ちのスターウォーズに乗ったんですが、椅子が左右に傾いて、サングラス越しには、目の前で本当に戦っているような感じがして、想像以上にすごかったです。

その後にパレードも見ましたが、夜の光輝くパレードと、クリスマスショーのミッキーとミニはすごかったです。それに、ホテルからシンデレラ城やディズニーリゾートラインが見え、夜景がとても綺麗かったです。

そして、最終日の3日目には、お台場とパナソニックセンターに行きました。パナソニックセンターでは、地球温暖化の対策や、1日にどれくらいの二酸化炭素が出ているのかなどを学びました。各ブースの担当の方が、1つ1つ丁寧に解説してくれたので、温暖化のことについて、いろいろ質問することができました。また、お台場では、自由の女神像とレインボーブリッジが重なって、バイキング会場からの景色が最高でした。

最後にバスガイドさんにお礼を言う時には、みんなが話を真剣に聞いていたところが良かったです。バスガイドさんも、最初はやんちゃな子たちだと思っていたそうなんですが、後々、みんながバスの運転手さんやガイドさんに「ありがとうございます」と伝えてるところを見て、良い子たちだと思ってくれていて良かったです。

何よりも、僕は、今回の修学旅行ではクラスみんなとより仲良くなれたと思ったし、このクラスで修学旅行ができて良かったなと思いました。ですが、徳島空港での解団式で、松下先生が話してくれたように、今回の修学旅行は70点。残りの30点は、日々の生活で取り返さないといけないと思います。この楽しかった修学旅行での学びを糧に、これからの学校生活をより充実したものにしていきます。

11月30日(木) 亀谷さんが語ってくれたことを、自分たちが伝え続けなければならないと思う

月曜日から3日間あった修学旅行は、始まる時は長いなと思っていたけど、今日になると短かったなと思うようになりました。この3日間で一番楽しかったのは、2つあって、浅草とディズニーランドです。買い物、アトラクションがとても楽しかったです。浅草に行くのは初めてで、キラキラでかいい建物にとっても興奮しました。伝統的な、建物を見たり食べ物を食べることができたけれど、ディズニーでは、レストランの行列がすごくて、あんまり食べれなくて大変でした。

また、このような伝統的な建物も、昔、戦争で焼かれていたという事実を「東京大空襲戦災資料センター」で知りました。そこでは、絵で空襲の被害が描かれていた場所があったのですが、見ているうちにとても怖くなりました。東京大空襲を体験された92歳の亀谷さんは、そのことを涙を流しながら語ってくれました。このことを自分たちが伝え続けていかなければならないと思いました。

楽しかった修学旅行が終わって、また金曜日から松中生としてテストや授業を受けて行かなければならないけど、切り替えて頑張っていきたいと思います。

11月30日(木) 修学旅行、第1日目「東京大空襲戦災資料センター」で深く考えさせられたこと

修学旅行の第1日目、初めて「東京大空襲戦災資料センター」へ行きました。そこでは、戦争のことについてたくさんの方が詳しく残されていました。どれだけの人が亡くなったのか。どれだけの被害があったのか。その時の状態をそのまま残されていました。

実際に戦争を体験した人の話を聞くと、楽しそうに話している人はいないし、見たことがありません。それほど戦争はみんなから嫌がられているものです。戦争への気持ちは、みんな反対だと思います。

一番かわいそうなのは、戦争に巻き込まれた人々です。「戦争は誰が得をするのか」「戦争をする意味はあるのか」「戦争をして巻き込むのではなく、もっと違うやり方や方法があったのではないのか」と思います。

戦争をせずに話し合いで決める方がいいなと私は思いました。戦争を実際に経験したことがないし、目の前で見たことはないけど、それでも、話を聞いたり映像を観たりすると、一番に思うのは「何でこんなことをするんだろう」ということです。

この前映像で見たのは、さっきまで一緒に遊んでいた友だちが何時間後に、そこら辺の道で焼け死んでいるという話でした。お葬式もなく、誰が誰かわからない死体が、そこらへん一面にたくさんあると言っていました。さっきまで一緒にいたり、昨日まで一緒に居た人たちが、自分が想像もできないような状態になって転がっているのを聞いた時、こんなことは絶対にあってはならないことだと思いました。

今までと同じ生活ができなかったり、日常的な楽しい幸せな生活が一瞬になくなったそうです。身体に火がついて、熱くて川に飛び込む人。焼け死んで、誰が誰かわからない状態になっている人。そんな光景を自分が見たら、恐怖と悲しさ、そして、絶望して一生立ち直れないかもしれません。戦争をしている人は、地域の人や村の人の苦しさに気づいていないから、戦争を続けるんだと思います。

戦争は勝ち負けが決まるまでするので、戦争に参加している人がみんな帰って来れるわけではありません。だから、戦争に行きたくない人が行きたくもない場所に行き、命を犠牲にしてまで、国のために戦っているのがすごいなと思いました。

戦争は、自然に起こることじゃないから、防ごう、やめようと思えばやめられることです。だから、戦争が少しでも少なく、そしてなくなるようになって欲しいです。

私は、亀谷さんの話を聞いて、心が熱くなりました。亀谷さんは7人の兄弟姉妹であり、一番身体が弱かったそうです。戦争中、家族の母ときょうだい5人が避難していく中、敏子さんは動くことができなかったから家にいたところ、お父さんが敏子さんを起こして、一緒に避難しに行ったという話が、一番印象に残っています。敏子さんのお父さんが、本当にすごいなと思いました。そして、亀谷さんが言っていた戦争の話を少しでも多くの人に届いてほしいと思ったし、戦争がなくなって行けばいいなと思いました。

11月30日(木) 「助け合い」と「感謝」の大切さを実感できた修学旅行になりました

昨日、3日間の修学旅行が終わりました。どれも楽しくて、アツという間だったけど、その中でも、特に心に残ったところがいっぱいあります。まず、「東京大空襲戦災資料センター」です。戦災資料センターでは、空襲の被害だけでなく、戦争中の暮らしについても知ることができました。私は、改めて戦争は絶対にしてはいけないと思いました。なぜなら、軍人だけでなく、一般の人もたくさん被害を受けているからです。もちろん、軍人が犠牲になるのも大変なことだけど、その国にいて、一般の人が危険にさらされると考えると、怖くなったし、今までよりも戦争が嫌なものだと思いました。

92歳の亀谷敏子さんから東京大空襲の体験を聞きました。亀谷さんは、「兄が軍の訓練に行くのを止めなかったから、自分は戦争の加害者でもある」と言っていました。戦争から国が復興しても、被害を受けた人の心の傷は治らないんだなと思いました。私は、戦争について知らないこともまだまだあるのでニュースを見たり、歴史を調べたりして、まずは知ることから始めようと思います。

2日目は、東京大学や東京大学の赤門、弥生土器が出土した文京区弥生町をバスから見学し、国会議事堂に行きました。国会議事堂は、とてもきれいな建物で、ここで日本の政治が決まるんだと思うと、興味深い気持ちになりました。この国会議事堂の中には、議員らしき方もいて、少し緊張しました。帰りのバスからは、皇居近くの風景と桜田門が見えました。桜田門は、井伊直弼が暗殺された桜田門外の変で学習していたので、実際にその場所を見ることができて歴史の知識が広がりました。

そして、午後からは、デイズニーランドに行きました。おもしろいアトラクションや、かわいいお土産がたくさんあって、買うこともできたのでよかったです。最初に鋤山列車の乗り物に乗りました。ジェットコースターのような感じで、とても速かったので、怖いけど面白かったです。他には、「イツアスモールワールド」に乗りました。歌声を聞きながら船に乗るアトラクションで、ゆっくりできたし、中は世界を表現していて可愛かったです。

一番感動したのが夜のパレードです。キャラクターなどの模型にLEDで模様を作っていて綺麗だったし、クリスマスの音楽もかかっていたので感動しました。今度東京に行くことがあれば、絶対に見たいし、旅行の中で一番楽しかったです。

2泊したホテルでは、忙しかったけど、班の人と助け合って泊ることができました。ホテルに限らず周りの人に助けってもらうことがあったので、この旅行で助け合いの大切さを感じました。また、一番はこの旅行に行かせてくれた学校や親への感謝です。大金を出してくれた親には、本当に嬉しくて感謝の気持ちがたくさんあります。お土産を渡したり、旅行の話をしたりできてよかったです。

また、バスの運転手さんや旅行会社のバスガイドさんなど、たくさんの方が楽しませてくれたことに、とても感謝しています。助け合いと感謝の大切さなどを実感できた修学旅行でした。私は、特にこの2つを大切にしたいです。

【家族への思いを表現した修学旅行の短歌】

ありがとう いつもは言えぬ 感謝の言葉 その日はなぜか 自然に言えた
お土産を 選んでいると 浮かびくる うれしそうな 弟の顔
3日分 修学旅行の 思い出を 土産と共に 袋に詰める
帰る途中 思い浮かんだ お帰りと 笑顔で待ってる 家族の顔
お土産を 貰ってくれた その笑顔 心の中は いつもありがとう
まず一番 帰ってすぐに 心から 恥ずかしいけど 感謝の言葉
最終日 帰ってきたよ 徳島に 思い出いっぱい 家族に語る
家族への おみやげたくさん 買ってきた 喜んでくれる 家族へ感謝
母さんと おそろいにした キーホルダー ずっと一緒に つけていようね
待望の 修学旅行に 行けたのは 家族のおかげ 感謝でいっぱい
おみやげを 渡した時の みんなの顔 喜んでいて うれしかった
家族への 最高のおみやげ 渡したよ すると家族は 微笑んだ
家族への 溢れる思い ありがとう 感謝の思い ずっと心に
おみやげと せかす弟 思い出し 急いで買った キーホルダー
「おかえり」と 笑顔で迎える 母親と 土産に照れる 父親の顔
家族への 溢れる思い ありがとう この幸せを ずっと心に
一番に 楽しかったと 言ってみた すると家族は 満面の笑み
大金を 出してくれた 両親に 感謝の気持ちと お礼の言葉



【修学旅行の短歌について綴った生活ノート】

12月5日(火) お土産を渡して、笑顔になってくれた家族が一番の思い出

今日、私は修学旅行の短歌を完成させました。

「お土産を 貰ってくれた その笑顔 心の中は いつもありがとう」

これは、私が帰って来て、家族みんなにお土産を渡したシーンを表しました。お土産を渡した時、家族みんなは笑顔になってくれました。家族が笑顔になってくれて、私も嬉しくなって笑顔になりました。心の中だけでなく、言葉にも「ありがとう」と発したけれど、心の中は、「いつもありがとう」という気持ちでいっぱいだったというのを表しました。東京や千葉での体験は、もちろん楽しかったけれど、お土産を渡して、笑顔になってくれた時の家族が一番の思い出で、一番嬉しかったです。

【東京大空襲被災センターにおいて亀谷敏子さんから学んだこと】

亀谷さんとの出会いに感謝を込めて、自分の思いや願いを語り合う人権学習 ～亀谷さんとの出会いから考えたこと、学んだこと、自分はどうか生きるのか～

【亀谷敏子さんへの思いを表現した短歌】

重い過去 語ってくれた 亀谷さん その想いを受け継ぐ人に
亀谷さん 語ってくれた 僕たちに 戦争ほどの 犯罪はないと
戦争の 苦しみを語る 亀谷さん この世代で 平和を築こう
亀谷さん 平和のために 語ってくれた 忘れてはいけない 戦争のこと
戦争の 悲しみを語る 亀谷さん 出会いを糧に 本気で語ろう
7人の 家族の無念 噛みしめて 思い伝える 渾身の言葉
生命とは かけがえのない 宝物 その真実を 心に刻む



【亀谷敏子さんのプロフィール】

亀谷 敏子 (かめや としこ) さん

1931年11月5日生まれ (東京大空襲時 満13歳)

兄弟は7人。兄(17歳)は予科練に行っていて家に居たのは、父(46歳)、母(38歳)、姉(15歳)、私(13歳)、妹(12歳)、妹(9歳)、妹(5歳)、弟(1歳)の8人だった。父と私以外の6名は、東京大空襲で焼死。海軍予科練習生だった兄(17歳2ヶ月)も茨城県土浦市の空襲(1945年6月10日)で死亡。

【修学旅行の第1日目、私たちに東京大空襲の体験を語っていただいた講話の要旨】

「戦争はこの世で最大の罪悪。平和がなければ幸せは絶対はない」と語った亀谷さん。

東京都深川区(現在の江東区)出身で、両親と兄弟姉妹6人の9人家族でした。戦火が激しくなるまでは、家族で浅草に出かけては映画や食事を楽しんでいました。

下町の大部分は米軍機の無差別攻撃に襲われたのは、1945年3月10日未明でした。亀谷さんは、先に避難した母や妹たちのいるコンクリート造りの味噌屋のビルに父と逃げました。中は人でぎっしりで入り口付近にとどまっていた。やがて悲鳴とともに奥のガラス戸が溶け、火が燃え広がりました。

父と2人でビルから飛び出し、火の粉を避けるため道路に身体を伏せたり、トタン板で身を守ったりして生き延びました。翌朝、家を目指して歩き出しましたが、煙が目にも染みて開けられませんでした。路上には火傷でピンク色になった裸の遺体が転がり、つまづくこともありました。

味噌屋は骨組みだけ残して焼け落ち、地下室にいた母や弟、妹2人は4日後、通りに並べられた遺体の中から見つかりました。母は丸坊主で、弟は頭が失われ胴体だけでした。姉ともう1人の妹は見つかりませんでした。親戚のいる茨城県に疎開した亀谷さんは、星を見ると家族を思い出して「お母ちゃん、夢で良いから出てきて」と枕をぬらしたと言われます。

海軍飛行予科練習生(予科練)だった兄も、1945年6月、茨城県土浦市で空襲に遭い命を落としました。

亀谷さんは最後に、兄が海軍飛行予備練習生(予科練)になったことを次のように語られました。

「皆さんに、もう一言付け加えさせていただきます。今、私は軍国少女であった自分が殺人者だという、自分を責める思いというのがすごくあるんです。私は兄を予科練に行かせたために、母たちが疎開を遅らせたんです。本当は、2月に疎開するはずだったのを、3月の末に兄が予科練の休暇をもらってくるということで、じゃあ、3月の末まで疎開を伸ばそうということで伸ばした。そのために、3月10日のあの空襲で死んじゃったんです。ですから、私が兄の予科練行きを阻止していれば、兄の言うことを聞かなければ、兄は無事でしたし、もちろん家族も無事だったと思うんです。今、私は、本当に家族を殺した殺人者だという負い目を、いつも自分に感じながら生きております。戦争っていうのは、最大の犯罪です。最大の人権侵害です。皆さん、絶対に戦争が起こらない努力を続ける一人一人であり続けてください。」

※平和への思いを込めて語っていただいた亀谷敏子(92歳)から学んだことを語り合った平和学習について綴ってくれた生活ノートです。

12月6日(水) 明日の「東京大空襲被災資料センター」で学んだことの発表を頑張りたい

明日、「東京大空襲被災資料センターで学んだこと」や「92歳を生きる亀谷さんから学んだこと」についての発表があります。明日の発表では、自分から手を挙げて発表できるようにしたいです。戦争する意味があるのかとったりしました。私は、戦争について反対です。絶対いい気持ちになる人はいません。明日の発表では、自分の言葉で語ることを、きれいごとじゃなく本当のことを言うこと、自分から手を挙げることをできるようにしたいです。

そして、明日の発表は、自分の成長につなげていけるようにしたいです。自分から発表することは、自分の大きな目標であり、発表できたことの嬉しさや達成感、自分に対して自信が生まれます。手を挙げる前は、いつもドキドキしてめっちゃ迷います。でも、頑張って手を挙げ、発表を始めたらいっぱい怖くありません。いつも手を挙げるまでが一番緊張します。それでも、私は発表します。

明日の4時間目の授業は最高の時間にしたいです。亀谷さんへ向けての熱い語り、感動を与えられるような語りができるようにしたいし、そうなるようにします。私は、明日の発表ではめっちゃ頑張りたいです。亀谷さんに本当の感謝の気持ちを伝えられるようにしたいです。

(担任コメント)

前向きである姿は、美しく輝いている。すごく成長している姿に、いつも元気をもらっています。三者面談も楽しみです。1日1日を生活ノートと共に頑張っていること、このことは学力アップにもつながります。日々の努力を積み上げ、人間として大きく成長していきましょう。

12月7日(木) 10年後20年後に生きる人たちが平和だと思える世の中にしたい

私のお母さんのおじいちゃんは、戦争に行っちゃったそうです。命を削ってまで戦って、今の平和な社会にしてくれたと思えば涙が出ます。今はまだ、完全に平和な社会というわけでもないの、これから10年後、20年後となった時、その時代に生きている人たちが平和な社会と思えるような世の中にしていきたいです。

12月7日(木) 人それぞれの平和があるし、私には私なりの平和がある

今日の語り合いの人権学習は、語り部の亀谷敏子さんのお話や東京大空襲戦災資料センターの資料などから、自分の曾祖母への思いをしっかりと語ることができました。

私は、この学習を通して「平和」という言葉の意味をずっと考えていました。結局、「1つの意味に定まるべきではない」という考えになりましたが、それは、この言葉以外にも同じだと思います。人それぞれの平和があるし、私には私なりの平和がある。でも、だからこそ、全員が「平和」と口をそろえて言える世界になるべきだと思います。それを亀谷さんのお話、戦災資料センターの資料から学びました。この貴重な経験を無駄にしないよう、私も精一杯生きていこうと思います。

(担任コメント)

11月27日、亀谷さんへの学年代表の語り、松茂中学校第2学年と亀谷敏子さんとの深い絆をつくってくれました。今日、人権学習における一人一人の語りも、心に沁み込んでいきました。一人一人のひたむきな語りに、クラスメートの一人一人が、尊敬と憧れのまなざしを送っています。仲間を尊敬できる幸せ、仲間から尊敬される幸せ、本心をさらけ出す語り合いの人権学習には、深い絆が培われていきます。次は「スダチの苗木」の語り合いが予定されています。この語り合いのテーマは互いへの感謝です。家族への感謝。仲間への感謝。感謝の日々を生きる喜びを語り合ひましょう。

12月7日(木) 私は私が後悔しないように、明日の発表を頑張ろうと思う

明日は、亀谷さんの話を聞いて思ったことや学んだことを発表します。人それぞれの考えが違うので、友だちの意見から新しい発見がもらえたらいいなと思います。そして、よく森口先生に「頑張って生き生きと語れよ」とか、「Kさんに続いて頑張れよ」と、励ましや背中を押される言葉をもらいます。だから、私は先生の期待に沿えるような発表を明日したいと思います。今からでも緊張するし、心臓がバクバクしているけど、私は私が後悔しないように頑張ろうと思います。

(担任コメント)

人として大切なものがしっかりと備わっています。素晴らしい感性がある。人間として成長している姿に感動です。

12月7日(木) その人本人がどういう思いなのかよく知って自分の思いを伝えたいと思う

今日は、東京大空襲戦災資料センターで学んだことを語り合う人権学習がありました。僕は、この授業に向けて、自分の思いを文章にまとめていたのですが、その内容について、今回はあまり発表したくありませんでした。

それは、僕は文章の中に「兄や家族がなくなってしまったことに、亀谷さんが自分自身を責める必要はないと思う」と書いてしまったからです。僕は本当にそう思ったとしても、亀谷さんからしたら、あまり励ましの言葉にならず、逆に、僕からは言える言葉ではないと思ってしまったからです。

戦争の光景や苦しみは、亀谷さんしか正直わからないと思います。人は一人一人考え方が違うので、政治にしても、戦争にしても、反対する人と賛成する人がおり、自分が思ったことでも、戦争についての話で、少しでも亀谷さんと違う部分が出てきて、亀谷さんを傷つけてしまわないかと心配でした。

僕は、もちろん戦争は絶対にしてはいけないし、亀谷さんに少しでも励ましの言葉をかけたいと思っています。ですが、今の自分には戦争はとても難しいもので、簡単に意見を発表していいのかという思いがあるので、これからはその人本人がどういう思いなのかよく知って自分の思いを伝えたいです。

(担任コメント)

人間の本当の苦しみ、本当の思い。そこに思いを巡らせていること、そこにはこれまでの語り合いの人権学習の成果があると思う。今まさに学び続けることが問われている。これから、第一次世界大戦、第二次世界大戦と、戦争の歴史を深く学んでいきます。人間として、何が問われているのかを共に考えていきましょう。

12月7日(木) Kさんの言葉は、一言一句が頭の中に入りわかりやすく尊敬します

今日は、東京大空襲戦災資料センターで学んだことをテーマにして、語り合う人権学習がありました。10人くらい発表してくれたけど、その中でも、最後に発表したKさんの語りが一番心に残っています。Kさんの言葉は、一言一句が頭に入ってきて、とてもわかりやすいので尊敬します。私は発表することができなかつたけど、次の時は、しっかりと発表できるように頑張りたいと思います。

(担任コメント)

語り合いは心を豊かにします。伝える喜び。次は「スダチの苗木」に学ぶ人権学習です。家族や仲間への感謝を語ることは人生最高の喜びです。自分自身の人生が豊かになる語り合いをクラスと仲間と創り上げましょう。

12月11日(月) 修学旅行で出会った亀谷敏子さんから学んだことを大切に心に刻んでおきたいと思う

今日の1時間目に、修学旅行の時に聞いた亀谷さんのお話から学んだことを発表しました。私は、亀谷さんが最後に「自分の判断が少し違っていたら、兄は死なずにすんだのかもしれない」というようなことを言っていたので、それを聞いて思ったことを発表しました。亀谷さんたちは、戦争中にきょうだいと家族を亡くされたそうです。中には、身体の一部しか発見されなかつた方もいたそうです。そのような状況を知った時のことを話してくださって、すごく胸を打たれました。

私のご先祖様の中にも、戦争に行った人がいると思います。その人がたくさんさんの遺体を見て、どう思ったのかは、想像もできません。私は、戦争で亡くなった人を殺したのは、戦争を始めるきっかけになったことだと思います。だから、亀谷さんは、自分を責めないで欲しいです。私は、修学旅行で出会った亀谷さんから学んだことを大切に心に刻んで生きていきたいと思っています。

《仲間の生活ノート》

仲間が日々の生活を綴ってくれた生活ノートです。今回も、学習について思うこと、仲間との人間関係のこと、部活動のこと、様々な人権学習のこと、一人ひとりの誠実な思いが表現された生活ノートを掲載することができました。仲間の思いを通して、自分の生活をみつめ、共に成長する一日一日を過ごしていきましょう。今回は、11月11日(土)から12月9日(土)までの生活ノートです。

11月11日(土) 県駅伝を終えて考えたこと

今日は駅伝本番でした。緊張や不安、いろんな感情が、走る直前まであったけど、無事に走り切ることができたし、1区から5区までタスキをつなぎきることができました。今日の駅伝は、私の大きな経験にもなったし、成長にもつながりました。駅伝練習をしていく中で、毎朝早く起きないといけないし、学校に着いたら、走って体力をつける辛いこともたくさんありました。良い記録が出なかつたり、練習についていけなかつたり、足が痛くなってしまったせいで走れない日もあつたり、色んなことがありました。とてもしんどいことが多かつたけど、もちろんうれしいことも楽しかつたこともありました。自己新記録が出たり、練習終わりにみんなで朝ご飯を食べたり、とても記憶に残っています。

今日の駅伝は、完璧という状態では走れていないけれど、チームのみんなと走り切ったことが1番嬉しかつたです。今月は、猛練習はないけど、新人駅伝に向けて、1月から練習が再開します。それまでに足を完全に治して、練習に参加できるようにしたいと思っています。これまで支えてくれた家族や先生方、いろんな人に感謝したいと思っています。本当にありがとうございました。「これからもサポートお願いします」と伝えたいです。本当に良い経験になりました。

11月16日(木) 大事なことを言っていたら、意識せんでも頭に残る本気の人権学習で変わった私

今日は、修学旅行のことをいっぱい決めました。いろいろ決まってよかったです。後は、早めに準備をしていきたいです。

私は人権についての考え方が変わりました。小学校の時から人権の授業をしてきたけど、中学生になって本格的に授業をやり始めたので、人権に対する考え方が変わりました。「人権」という言葉は、最初なんかわからなかったし、あんまり聞きなれない言葉でしたが、今では、1週間に1回のペースで聞くようになりました。そして、「人権」という意味も少しずつだけわかってきました。

人権の授業をしている時に、先生たちがさらっと言っている言葉があるけど、その言葉には、めっちゃ大事なことが多くあります。その一言で変わることも多いし、大事なことを言っていたら、意識しなくても頭に残ります。だから、これからも大事にしていきたいし、習ったことを生かして頑張りたいです。

絶対に、1年生の時と比べたらよくなったと思うし、考え方も変わったし、文を多く書くのが得意になったと思います。自分だけがそう思っただけかもしれないけど、でも、自分の中ではめっちゃ変わったと思います。だから、これからも変われるようにしたいし、そうなるように努力します。

人権の授業では、他人のことだけで、必死に考えてその人の気持ちになったつもりで、自分のことのように思い、本気で考えていけるようになりたいし、絶対にそうなるようにします。これも、先生方が必死に人権の授業をしてくれたおかげです。

もし、人権の授業がここまで続いていなかったら、今のように考えることやってなかったし、どうせ私のことだったら、「どうでもいい」って投げやりな考え方のままだったと思います。

私は、正直に書くと、最初の頃は「人権学習」をしていた時、全然授業を聞いていなかったし、興味も持てなかったし、話も聞いていなかったし、全く人権学習に対しての気持ちになかったです。それを知っての上で、先生は、ずっとずっと毎日のように、「頑張れ」「Iさんならいける」って声をかけてくれたことがあったのに、それも無視して授業で聞かなかった時もありました。その態度を見てでも、先生はあきらめずに、ずっとずっと言い続けてくれました。

今考えたら、「なんで言うことを聞かんかったんだろう」って思います。だから、恩返しになるかはわからんけど、先生の期待に応えられるように、テストも頑張りたいし、人権の発表も頑張りたいです。そして、高校についても、少しずつ考えたいです。

最近では、高校について考えることが多くなりました。「どこの高校に行きたい」ってことを考えるより、そもそも、高校に行けるのかがめっちゃ心配なので、今から、「生活態度」「勉強をちゃんとする」ことを心がけていきたいです。

(担任コメント)

「松中の絆」が楽しみです。生活ノートを通して素晴らしく成長しています。テストに対しても、努力する姿に感動です。今日渡した生活ノートの原稿は、お母さんにも読んでもらってください。

この文章が学年通信となり、1冊の学年文集「松中の絆」になります。1つ1つの生活ノートは生涯の宝物です。この頑張りを誇りに、テスト勉強を全力で頑張ってください。本物の努力は人生を変えます。9教科全てに力を出し切ってください。

先生は、頑張る姿に元気をもらっています。すべての教科に、全力を尽くしてください。有意義な金・土・日を過ごし、テストに備えてください。そして、修学旅行は、思いっきり楽しみましょう。

11月17日(金) 杉原千畝さんの学び、ビザを書く大変さがよくわかり、千畝さんのような人になりたい

今日は、杉原千畝さんの孫にあたる、杉原まどかさんの話を聞きました。やはり、授業で見るとよりも、親族の方が話してくれたので、気づいたことも多かったし、杉原千畝さんの意外な日常的な面も知れたので良かったです。僕は、今回、杉原千畝さんのビザを書く大変さもよくわかりました。授業では、2139枚のビザを書いたと言われていただけで、ビザはどんなものなのかや、どれくらい1枚に時間がかかるのかわからなかったのですが、実際のビザを見て、その1つ1つのビザを書く大変さがよくわかりました。僕は、そんな千畝さんのような人になりたいと思ったし、まだ、自分に足りないことも多いと思ったので、これからは、尊敬する人の良い面を自分に取り入れていきたいです。

11月17日(金) 杉原さんのように、本当の優しさを持った人に近づきたい

今日、「ゆめ未来塾」がありました。今日は、杉原千畝さんのお孫さんの杉原まどかさんが来てくれ、講演をしてくれました。その講演で、杉原千畝さんの幼少期のエピソードや、外交官になった時のエピソードをたくさん聞くことができました。特に心に残った言葉に「あなたがユダヤ人だから助けたわけではない。人として当たり前のことをしただけだ」という言葉です。その言葉を聞いて、本気の優しさをもっている人は、当たり前の人に人を助けることができ、どんな人であったとしても、平等に優しくできる人なんだと感じました。僕は、今まで人を助けたことや平等に優しくすることはできませんでした。苦手な人がいると、少し強い口調で言ってしまうたり、全員に同じ対応をすることができません。でも、少しでも全員に優しくしようという気持ちをもっていけば、杉原さんのように本当の優しさを持つ人に近づけると思います。

11月18日(土) 友だちを応援しようと思った

今日は、「人権こども塾」の活動がありました。その中では、高校生の方が、「ゆめ」について語っていました。私には、その高校生の方のようにはっきりした夢はないので、何かないかなあと考えました。私の友だちに、行きたい高校がいっぱいあって悩んでいる子がいます。その子は、プログラミングが好きで、それ関係の仕事に就きたいみたいです。その子と一緒に高校のことを考えてみることもあるけど、私は「ここでいいかなあ」くらいにしか思っていませんでした。でも、当然、その子とは違う高校に行くことになります。その子の行きたいところは、県外にあって、徳島よりずっと遠いです。こんなにサラッとお別れするんだなあと思いました。その友だちが部活に来ると、とても嬉しい気持ちになるくらいなので、仲良くしてもらっているかなと思います。部活では、女子が2人だったので、一緒に頑張って来たし、嫌だったこととか辛かったこととか聞いてくれたので、寂しいです。でも、友だちには、行きたい高校とかなりたい職業があるので、自分は応援したいと思います。これからは、友だちが夢を叶えられるように、一緒に話をしたり、パンフレットを見たり、応援したいです。

11月19日(日) 忙しい時はダラダラせず、睡眠時間を大事にしたい

この前、祖母から「睡眠不足は成績に影響するらしいよ」と言われました。1日の適切な睡眠時間は、人によって多少は異なりますが、8時間から9時間だと言われているそうです。私は、塾とかで忙しい日は、7時間も眠れていません。(12時くらいから7時前くらいまで)1時間足りていなかったとは初めて知りました。これからは、忙しい時はダラダラせず、睡眠時間の方を大事にしていきたいです。少しでも睡眠時間を多くとることで、次の日スッキリ起きられたり、習慣化していくと思うので、これからは、11時には寝たいです。

11月20日(月) 路上生活をしている子どもたちが、仲間を大切に、分け合い生活しているのはすごいと思った

今日も、5、6時間目に「ゆめ未来塾」がありました。今回は、ウガンダへボランティアで行った方のお話を聞きました。特に、「ストリートチルドレン」といわれる、路上で自分たちでお金を稼ぎ生活する子どもたちの話が心に残りました。子どもたちは、物乞いをする中で手に入れた食べ物を、取り合いするでもなく、みんなで平等に分け合っていると聞き、仲間を大切にしているというのは、本当にすごいなと思いました。

11月20日(月) 「ゆめ未来塾」でウガンダの現状の話聞き、募金しようと思った

今日、「ゆめ未来塾」がありました。「青年海外協力隊」のことについてのお話を聞きました。今回は、先月までウガンダで活動されていた方のお話を聞きました。まず、ウガンダの場所、どんな食べ物があるかなどを知りました。バナナやパイナップルなどが美味しいらしいです。次に、ウガンダの現状を知りました。路上で生活して、止まっている車に乗っている人にお金をもらったりしている子どもたちがいると知りました。また、狭い建物で、100人以上生活しているところもあるそうです。日本では、考えられないような悪い環境で生活している子どもたちがいると考えると、スーパーなどにある募金箱にお金を入れてあげようと思いました。私たちが募金したお金が、今日観たようなひどい環境に置かれた子どもたちに届けられるといいと思いました。そして、食べ物などを買えるようになればいいなと思いました。

(担任コメント)

自分より年下の子どもたちが、生きるために働かなければならない。貧しい国では、当たり前のようになっているけど、子どもが子どもらしく生活できるような世界になって欲しいですね。

12月5日(火) Kさんみたいに周りをよく見て気づける人になりたい

Kさんは、周りをよく見ていて、とても優しい人だと思います。今日の給食の時、休んでいる人の係を自分からやっていて、とてもすごいと思いました。誰かが「休んでいる人の係、やってあげて…」と言っていたら、私でもできると思うけど、誰も言っていないのに、自分から気づくのは私にはできないと思います。私も、Mさんみたいに、周りをよく見て気づける人になりたいです。

12月7日(木) 人権擁護委員の人との交流で学べ、充実した会になりました

今日、学校で人権委員会の活動で、人権擁護委員という徳島の法務省で活動している方と語り合いました。ほとんど、生徒が人権に関して質問する感じでしたが、そこで僕が考えたことが2つあります。

1つ目は、自分もみんなも自殺しないために何をしたらいいかということです。僕は、悩みを聞いてくれたり話したりできる人が必要ということを知りました。本当にその通りだと思います。1人で悩みを抱えてしまえば、自殺などにつながります。だから、僕は相談しやすい人になりたいです。

2つ目は、LGBTQについてです。僕は、初めて「パートナーシップ」という言葉を知りました。その制度は、同性愛者が付き合っていることを示すものです。また、日本はG7の中でもLGBTQの法案が一番遅いということを知りました。だから、僕は選挙ができる年になったら、そういう法案をつくらせている人に投票しようと思います。今日は充実した会になったと思います。

12月7日(木) 人権擁護委員の方たちと交流し、人権学習で語ることの大切さを学ぶことができました

今日は、放課後に生徒会専門委員会の人権いじめ防止委員会を代表して、人権擁護委員の皆さんとの懇談会に参加しました。また、2時間目には、東京大空襲戦災資料センターでお話を聞いた亀谷敏子さんから学んだことを語り合う人権学習もありました。その授業では、自分から手を挙げての発表も、指名されての発表もできませんでした。手を挙げて発表した子や、指名された子の発表内容がみんな感動する内容ばかりで、本当に同じ歳で同じクラスの子たちが語っているのかと思う内容が、ポンポンと出てきたのすごいなと思いました。私も発表した子たちのようになりたいと思います。

放課後では、人権擁護委員の方との懇談会では、委員の皆さんが、いじめと差別の話をしてくださり、新しいことにも気づき、これからの生活に生かしたいと思いました。

この懇談会の最後、1人1人がマイクを持って質問したり、感想を言ったりできる機会があり、1年ぶりくらいにマイクを握って人権擁護委員の皆さんに感想を伝え、自分の中に秘めてきた思いを思い切って質問しました。この私の質問を人権擁護委員の方たちは受け止めてくれて、答えを出してくださったので、とても嬉しかったし、不安もなくなりました。

今回の出来事で、普段関わることがない人権擁護委員の方たちと交流し、マイクを握って発表をして、本当に、人権学習で語ることの大切さを学べたと思います。特に、いじめや差別が起きた時は、誰かに話を聞いてもらうのも大事だと教えてもらい、人をこれから大事にしようと思います。2学期の最期には、「スダチの苗木」の人権学習で語れる場面があるので、そこでは、自分から手を挙げて発表したいと思います。

12月7日(木) 今改めて考える必要があると思う、「あなたにとって平和・平等とは何ですか？」

今日は、人権いじめ防止委員会の半分の方が、放課後人権擁護委員の人と交流しました。私は、今回の交流で、人権の大切さを改めて考えることができました。特に心の残っているのは、「自殺者数」です。話の中で、中学と、学生全体、日本全体、徳島全体の人数を教えてくださいました。まず、中学生の全体は143人で、学生全体は512人だそうです。次に、徳島県内では89人で、日本全体は21,584人だそうです。正直、絶句しました。1年間でこんなにもたくさんの方が、1つの命を自らの手で落としているという事実には驚きました。徳島県内数は、日本の中でワースト1位ということも教えてもらいました。驚きすぎて開いた口がふさがらないってこういうことなんだなと思いました。

そして、今年は「水平社宣言」から101年です。101年経った今でも、人権侵害がなくなっていないのは紛れもない事実です。特に、最近ではネットによるいじめやアンチコメントが右肩上がりしているそうです。私は、自分の知らないところで自分のことをいろいろ言われていると思うと、すごく怖いです。でも、そういうことが実際に起きているので、より怖くなりました。

次いで、人権侵害の種類を教えてくださいました。障がい者差別、部落差別、男女差別、人種差別、LGBTQについて様々なことを教えてくださいました。その中でも、LGBTQは、特に心に残りました。「パートナーシップ」という言葉を、今日初めて知りました。徳島では、小松島市以外の市はパートナーシップを導入しているそうです。まだ、松茂町では導入していないらしいですが、話を聞くうちに早く導入してほしいと思いました。

今、世界では戦争が起こっています。世界から見れば日本は平和な国に見えるかもしれませんが、国内だけを見れば、一言で平和とは言いきれません。

この生活ノートをご覧になっている、そのあなたに質問です。

あなたにとっての「平和」「平等」とは、いったい何ですか？

私にとって「平和」は、抽象的になるかもしれませんが、「みんなが仲良く笑い合うこと」だと思っています。しかし、これはただ1つの意見であり、正しい回答ではありません。だから、私はいろいろな人に意見に耳を傾けて、協力し笑い合って生活していきたいです。

あなたは どう思いますか？ この質問は、「今改めて考える必要がある」と私は思います。

12月9日(土) 部落差別の映像で心に残った質問「人はどうして差別するのか」という質問です

今日は、「人権こども塾」に行きました。内容は、「人権クリスマス会」でした。まず、1年の振り返りをしました。僕は、「人権こども塾」を通していろいろなことを学びました。後、現在に残っている部落差別の映像を観て、感想を語り合いました。映像の中で、「人はどうして差別するのか」という質問が心に残りました。僕は、人間が自分より弱い存在を求めているからだと思っています。最後にプレゼントをもらいました。いろんな方からプレゼントをもらって嬉しかったです。